

5. 牧野組合の現状 —阿蘇草原維持再生基礎調査（平成28年度実施）より

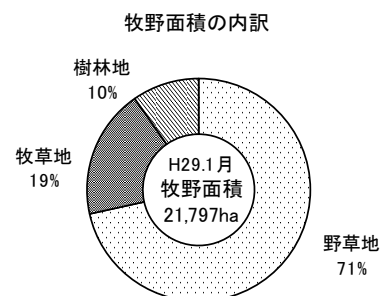
阿蘇の草原及び牧野組合の状況に関する調査は、平成10年から概ね5年毎に実施されています。平成23年度調査に続き、熊本県企画振興部が阿蘇地域の172牧野組合を対象として実施した、「阿蘇草原維持再生基礎調査」（平成28年度実施）の結果より、阿蘇の草原の現状を紹介します。

■牧野面積

- ・牧野組合等が管理する牧野の面積は21,797ha。そのうち、野草地は15,592ha（71.5%）。
- ・前回調査（H23年）から5年間で、牧野面積は189ha減少。野草地は98ha減少した。
- ・牧野面積のうち放棄地面積は935ha、前回調査（904ha）から31ha増加している。

牧野面積の推移

	H15年度 (ha)	H23年度 (ha)	H28年度 (ha)	H23~H28増減		
				面積(ha)	増減率	
牧野総面積	22,128	21,986	21,797	-189	-0.9%	
内訳	野草地	15,264	15,690	15,592	-98	-0.6%
	牧草地	4,911	4,245	4,090	-155	-3.7%
	樹林地	1,953	2,051	2,115	64	3.1%

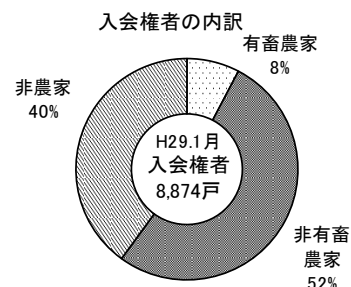


■維持管理の担い手の状況

- ・平成28年度の入会権者総数は8,874戸、そのうち有畜農家は682戸（7.7%）。
- ・前回調査と比較すると、入会権者数は319戸（-3.5%）、有畜農家は202戸（-22.9%）の減少。草原維持活動の担い手の減少が著しい。

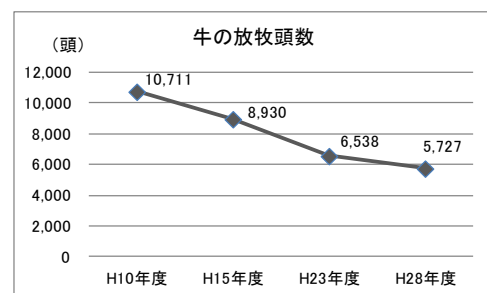
入会権者数の推移

	H15年度 (戸)	H23年度 (戸)	H28年度 (戸)	H23~H28増減		
				戸数	増減率	
入会権者戸数	9,760	9,193	8,874	-319	-3.5%	
内訳	有畜農家	1,183	884	682	-202	-22.9%
	非有畜農家	5,263	4,753	4,646	-107	-2.3%
	非農家	3,314	3,556	3,546	-10	-0.3%



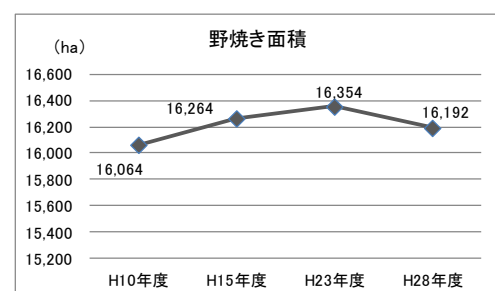
■牛の放牧状況

- ・平成28年度調査による牛の放牧頭数は5,727頭であり、前回調査から811頭（-12.4%）の減少。畜産における草原利用が減っている。



■野焼き・輪地切り

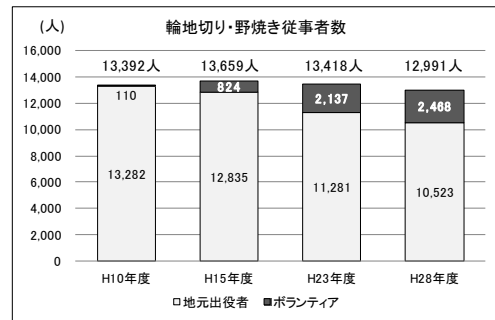
- ・野焼き面積は16,192haで牧野面積の74.3%。前回調査と比べて162ha減少。
- ・防火帯の延長は約541km、そのうち約65%が人力による輪地切りであり、労力負担は大きい。



- ・野焼き・輪地切りへの地元の人々の出役者数は延べ10,523人、支援ボランティアの参加数は延べ2,468人、合わせて13,418人が1年の野焼き・輪地切り作業に関わっている。前回調査と比較すると地元出役者数が6.7%減少する半面、支援ボランティア参加数は15.5%の増加となっている。

輪地切り・野焼きの従事者数

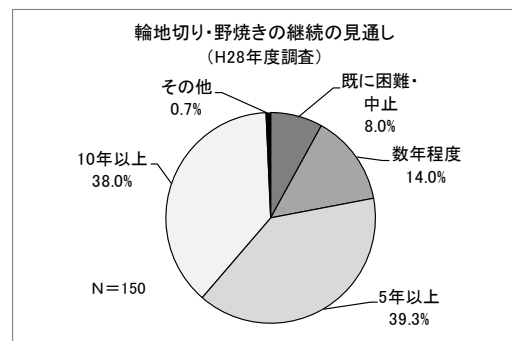
		H15年度	H23年度	H28年度	H23年からの増減	
					増減数	増減率
輪地切り	地元出役者数	5,409人	4,740人	4,223人	-517人	-10.9%
	ボランティア参加者数	317人	1,083人	1,276人	193人	17.8%
野焼き	地元出役者数	7,426人	6,541人	6,300人	-241人	-3.7%
	ボランティア参加者数	507人	1,054人	1,192人	138人	13.1%
合計	地元出役者数	12,835人	11,281人	10,523人	-758人	-6.7%
	ボランティア参加者数	824人	2,137人	2,468人	331人	15.5%



■今後の野焼き・輪地切りの継続

◇今後の見通し

- ・野焼き・輪地切り継続の見通しについて、「今後10年以上継続可能」は38.0%。これを含め、「5年以上継続可能」な牧野は77.3%だった。
- ・一方、22.0%が「数年程度なら実施可能」または「既に困難または中止」と回答。(※有効回答150牧野の集計)



◇輪地切り継続のために望むこと

- ・「管理道を兼ねた恒久輪地の整備」を望む牧野が69.6%で最も多く、次いで「ボランティアの拡充」が39.2%だった。前回調査と比べ、「ボランティア拡充」、「小規模樹林地伐採のための保安林解除」を望む割合が増加している。(※有効回答125牧野の集計、複数回答)

◇野焼き継続のために望むこと

- ・「後継者の育成」が57.5%で最も多く、次いで、「事故時の牧野組合の責任の軽減」が39.6%、「ボランティアの充実」が33.6%で、ともに前回調査を上回っている。「延焼防止のための装備の充実」(32.8%)や「延焼に備えての保険の充実」(27.6%)は前回調査に比べ割合が低く、装備や保険の整備はある程度進んでいることがうかがえる。(※有効回答134牧野の集計、複数回答)

◇今後の草原維持のために望むこと

- ・「草原の価値や草原維持の必要性の啓発」が60.6%で最も多く、次いで「阿蘇地域の地元住民の理解と協力」が51.8%だった。(※有効回答137牧野の集計、複数回答)

資料：阿蘇草原維持再生基礎調査（平成28年度実施）熊本県企画振興部地域振興課

- ・調査対象：172牧野組合（阿蘇郡市7市町村、旧蘇陽町）
- ・調査実施時期：平成29年1月

【過去のデータ】・平成10年「阿蘇郡牧野及び牧野組合現況調査」（財団法人阿蘇グリーンストック（当時）等）

- ・平成15年「平成15年牧野組合調査」（環境省九州地区自然保護事務所等）
- ・平成23年「阿蘇草原維持再生基礎調査」（平成23年度、熊本県）